



大野市教育委員会たより

令和元年12月2日発行 第40号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：11月21日（木）午後7時～9時40分	場所：結とびあ多目的ホール
対象者：大野地区住民（出席者数37人）	
次 第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」	

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

◎ICT教育を進めるとのことだがレベルが低いと思う。石川県加賀市のICT教育は全国トップレベルであり、地域によって差がある。大野市もタブレットを導入することだが、満足せずに高い意識をもってやって欲しい。

⇒■今年の3学期から全ての小学校において、1クラス分のタブレットを導入する。国が定める学習指導要領において、プログラミング教育の実施が掲げられており、大野市の教職員も10月に研修を行い、温度で感知したり、タイマーで感知したりして電気が点く仕組みなどを学習しているところである。来年度からはプログラミング的な体験をするとともに、プログラミング的思考をつける取り組みを進めていく予定である。タブレットなどの機器を使いながら、子どもたちの思考力を高めていきたいと考えている。

⇒◎今年6月に、文部科学省が「新たな情報通信技術戦略」の工程表を発表しているが知っているか。

⇒■把握していない。

⇒◎国がタブレットやパソコンなどを学校に取り入れていくことを示した工程である。情報技術は教育においてこれからもっと大切になる。ボランティアで子どもたちに勉強を教えている学生が切実に訴えたことは、現代社会において貧困から抜け出すには教育しかないと言っている。今の社会において、教育の大切さは計り知れない。これから本当に厳しい時代が来るので、教育委員会は教育に対して真剣に考えて欲しい。小さい時から1人1台のパソコンやタブレットを付与して教育させていかないといけない。教育環境はそういう所からやっていくべきである。

⇒■先般、福井県視聴覚研究会が大野市で開催され、大野高校、開成中、有終西小に県内の教職員が集まった。開成中ではタブレットを使った公開授業が行われ、市外の教職員から称賛をいただいた。これからはAIの時代であり、タブレットなどを使った授業を展開していかないといけない。数年前からは、小学校5・6年生と中学校全学年のクラスに大型電子黒板とタブレットを導入し授業を展開している。授業中、電子機器だけを使うのではなく、AIには出来ない思考錯誤できる時間も取り入れながら、教育を進めていきたいと考えている。

⇒◎AIは進化し、現在子どもたち1人1人の力に合わせた課題を出し、それを評価し、さらに次の課題をどうするかをすでに行っていることを忘れないで欲しい。

◎小中学校で耐震補強されている学校はどこか。

⇒■耐震基準を満たしていない学校の耐震補強を行っている。小学校では、有終南小や有終東小は校舎と体育館を、富田小や乾側小は体育館のみを、中学校では、開成中や陽明中、尚徳中で校舎と体育館をそれぞれ耐震

補強している。

- ⇒◎再編は、耐震補強している学校へ徐々に行っていった方が良いと思う。少しずつ、段階的に移行しながら、学校を減らした方がベストだと思う。
- ⇒■現再編計画は段階的な計画であったが、何回も子どもたちが学校を移らなければならない負担などを考慮し、最終形を選んだと考えている。
- ⇒◎地域の方は、移動するのを嫌がると思う。再編については、しっかり舵をきらないと前に進まないと思う。
- ⇒■保護者との意見交換会で一番多い不安は、通学の距離と時間、方法である。どのような通学方法を保証してあげるかなどを丁寧に検討していかなければならないと考えている。

◎再編は地区住民からのボトムアップ形式で進められるのが良い。地区住民の利害関係や考え方はいろいろあると思うが、基本は地区住民がどのようなことを望むかを大切にされた方が良い。学校数を決める際には、10年先ぐらまでの各校区の子どもの数の推移を基に検討するべきである。

⇒■来年度以降、そのようなデータを示しながら検討を進めていきたい。

◎現市長は、再編計画を見直すと言っていたが、どのように見直すのか。前の計画を引きずっているようでおかしいのではないか。

⇒■再編計画を見直していく考えは変わっていない。また、なんらかの形で学校を再編していかなければならないとも考えている。来年度、見直し案の検討に入るが、今年1年は再編について多くの方々がどのような考えを持っているかをお聞きすることとしている。

⇒◎計画を見直すのであれば、この場に議会や関係機関と調整をした計画見直しの原案を持ってきて意見を聞くべきである。

⇒■今年は、意見を聞くために時間をかけているが、来年度以降はスピード感を持ってやっていきたい。見直し案が出来た時は、各地区や関係団体に説明に回る予定としている。

◎ここにいる方々が、子どものことを本当に考えているのかと思う。小学校時代に続けてきたクラブ（スポーツ）が中学校にないので困っていると聞いている。子どものやりたい部活が出来るようにしてやりたい。また、保育園の時に同級生にいじめられていて、小学校、中学校は1クラスでクラス替えがなく、ようやく高校で離れることが出来たという話もある。

乾側小が下庄小や有終西小へ入っても学級数は変わらないと思う。通学距離は変わると思うが、さみだれ式に再編をしていけば、建物を建てなくてもよくなると思う。もう少し、時間をかければいいのではないか。

⇒■中学校の部活動の選択が少ないことや、技術や家庭、音楽などの専門教科の教職員が配置できていないことから、中学校の再編は急がないといけなと考えている。小規模校及び大規模校、それぞれにメリット、デメリットがあり、良い所をしっかりと伸ばしていきたい。

再編計画があれば、教育委員会では、乾側地区や乾側小の保護者に対して再編を行っていく説明を出来るが、現在は計画はない状況である。また、地区から先行再編の要望が出され、その後、取り下げられている。地区全体で方向性がしっかりまとまっている状況ではないため、教育委員会が一方向的に再編を進める訳にはいかないと考えている。

◎今日の意見交換会に参加しびっくりしている。参加者数が少なく、若い人も少ない。関心がないから少ないと考えているのか、開催の時間設定を間違っていると考えているのか。10年、20年先の話をするのだから、親子参加による意見交換会を開催するなどやり方を考えて欲しい。

教育にダンスが含まれたと思うが、先生がダンスを教えられないので、校外のスキルを持っている人に習っている子どもがいる。部活動では野球、ソフトボール、バレーボール、水泳など学校の先生では教えられないレベルは限られてしまっている。部活動の時間帯は親に責任を持ってやらせ、先生は部活動をしないで授業、放課

後などだけを見てもらうだけで良い。

⇒■今日の意見交換会は地域の方々を対象に開催させていただいたが、小中学校の保護者や未就学児の保護者を対象にした意見交換会は別で開催している。

⇒◎それは知っているが、以前の再編計画の説明会では、危機感を持って多くの人が集まっている。その波が引いてしまっていることに対して愕然としている。新しい計画案を出したとしても同じことを繰り返し、いつまで経っても計画は決まらないと思う。若い人は、学校がどうなるか分からないため、家を建てられないと言っている。長いビジョンで構えるのはいいが、出さなければならない点は明確に出さないといけない。

⇒■計画の進め方については承知した。部活については、学校からなくなることはない。部活動を通じて子どもたちと生活していくことは大切なことだと考えている。学校の部活だけで子どものニーズを満たすことが出来ないのは理解している。陽明中では校外のクラブに所属し一生懸命頑張っていれば、部活動としては認められないが、学校の部活には入らなくて良いこととしている。

◎来年度の検討を行う人選については、若い人も含めて幅広いメンバーで組織して欲しい。また、パブコメを行った後も計画に少なからず反映を検討して欲しい。

⇒■年配の知恵も必要であるし、小中学校の保護者や未就学児の保護者の意見も大切であると考えている。人選には若い方や男女の比率なども考えていきたい。見直し案を作った後は、皆さんに説明を行い、意見を伺うステップは必要と考えている。



◎大野地区は、再編を受け入れる側と考えているため関心がないと思う。今年4月に小浜市で4つの小学校を1つに再編しているが、参考としているか。複式学級に子どもを預けている保護者は教育環境について、どのように思っているか。

⇒■複式学級という形は特例だと思っており、普通学級にしてあげたいと考えている。保護者には、小さくて家庭的で良いと考えている方もいれば、人間関係がこじれた時どうするのか、立ち位置が決まってしまうと思っている方もいる。

⇒◎競争社会で生きてきたため、ある程度競争心が芽生えさせるような教育が必要ではないかと考えている。そう考えると、複式学級の学校については、希望者だけ近くの小学校へ行くことが出来るように考えてはどうかと思う。

⇒■学校は、それぞれの校区が決まっている。校区は昔から地域の方々の思いなどがあるため、簡単に変更することが出来ない。再編の見直しで校区が変わっていくと考えている。

◎先日、陽明中学校たよりを見ていたら、陽明中の生徒が乾側小の運動会の運営に協力したとの掲載があったが、少ない人数の乾側小で学校を運営していくことはどうかと思う。複式学級の授業風景もテレビで見たが、家庭教師に教えてもらうような感じに近かった。

⇒◎子どもの意見や希望をある程度取り入れるような学校再編を考えるべきである。再編をすると空き校舎が増えるので、機械的に小さい学校を大きい学校へ再編をするのではなく、希望が持てる再編をすべきである。

⇒◎再編は賛成である。大野市だけを見ているが、教育委員会は、市外の再編の例も出していただき、空き校舎をどのように利用しているかなどを資料として出して欲しい。来年度、再編計画見直しの検討をするということだが、しっかりスケジュールを決めて進めて欲しい。

⇒■市外、県外における再編の取り組みはいろいろであり、10年、15年積み上げて進めているところもある。大野の実情に合わせた再編を一生懸命考えていくしかないと思っている。

◎大野の過疎には驚いており、人の減り方はすごい。これだけ子どもの数が減っている中、学校を残すのはナンセ

ンスである。各地域の意見交換会では、地域づくりや文化を大切にしたいから学校を残して欲しいという意見が多いが、それは公民館機能を有効にしていけば良い。再編は、中学校2校、小学校4校が妥当であり、令和5年ぐらいが良いと思う。また、1950年代は大学進学は4人に1人だったが、現在は短大も含めて80%近くである。よって、中高一貫で教育を考えるべきと思う。中学・高校の6年間は人格形成を行う大切な時期であり、自分を知る時期である。

◎少人数である乾側小の保護者も再編などでまとめることが出来ないのに、市全体の再編をまとめることは出来るのか。

⇒■再編計画があれば、その内容に沿って地区や保護者と話を進められる。先行再編については、保護者と地区の方が1つにまとまっていただかないとうまく進まないことである。

⇒◎それであれば、市全体の再編はなお、出来ないと思う。乾側小の軽量鉄骨校舎の建設は、少人数の教育を良いとして行うのか。

⇒■少人数の教育が決して良いという考えではない。再編計画があれば、教育委員会から地区や保護者に対して再編を働きかけできるが、計画がない状況で、一方的に再編を進めることは出来ないと考えている。今回の対応はあくまでも、児童と教職員の安全を守るための耐震対策である。

◎この会は、中学校1校、小学校2校で進める感じにしかとれない。この内容を変えることは出来るのか。現再編計画を進めるために、時間稼ぎをしている感じにとれる。

⇒■中学校1校、小学校2校を見直すために意見交換会で各地区を回っている。見直し案は来年度に作成する。皆さんに理解いただける内容を示していければと思っている。

⇒◎見直し案はいつごろまでに示すのか。2年後、3年後では許されないと考える。

⇒■来年度中に示せるようにしていきたい。

◎今は、保護者の望む学校に子どもを入学できるのではないか。

⇒■校区が決まっているため、行きたいという理由だけでは校区を変更することは出来ない。条件が合えば校区の変更を認めている。

⇒◎保護者が大人数の学校で子どもを学ばせたいという理由で、校区を変更することは出来ないのか。

⇒■現在は出来ない。市が有終西小の校区を全市域として定めていれば、どこの地区からでも有終西小へ入学させることが出来るが、現在はそのような校区を設定していない。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

